

使い慣れた Excel を使ってボーリングデータを無償で作成

[① Excel でボーリングデータを作成]→[② ボーリングデータ作成サービスに読み込み]→[③ CALS 電子納品データ（XML 形式）&柱状図（PDF 形式）]を作成します!!

- [ボーリングデータ作成サービス]ではエディタとして[Web ブラウザ]を利用しますが、柱状-BASE.NET などの Windows アプリケーションと比較してキー入力づらい…との声を頂いております。
- 事実、複雑かつ大量データをキー入力する場合は、Web アプリケーションが Windows アプリケーションに追いつくにはもう少し時間が必要です。そこで、[Web ブラウザ]の代わりに[Microsoft Excel]を利用した入力用エディタとして、**Excel 編集機能（簡易・無償版）**を提供させていただきます。
- CALS 電子納品形式のうち土質柱状図を作成するのに必要となる項目に絞ってデータ入力を行います。具体的には[A:標題情報、B:岩石・土区分、C:色調区分、D1:観察記事、E1:標準貫入試験、K:原位置試験、L:試料採取、O1:地質時代区分、P:孔内水位、Q1:掘削工程]の入力が可能であり、B・C・D・F は同一表にて入力します。
- ボーリングデータ作成用エディタ(Excel ファイル)は無償提供となります。配布および使用に制限がないため、多くのユーザによりボーリングデータを作成(=キー入力)することが可能です。
- [ボーリングデータ作成サービス: Ver.3]では CALS3（地質・土質調査成果電子納品要領案[H20.12]）形式データおよび JACIC 様式柱状図に変換されます。
- [ボーリングデータ作成サービス: Ver.4]では CALS4（地質・土質調査成果電子納品要領[H28.10]）形式データおよび CALS4 様式柱状図に変換されます。

Excel 編集機能は無償です

最も使いやすいエディタは結局 Excel では…

使い慣れた操作性!!

大きな画面を有効利用

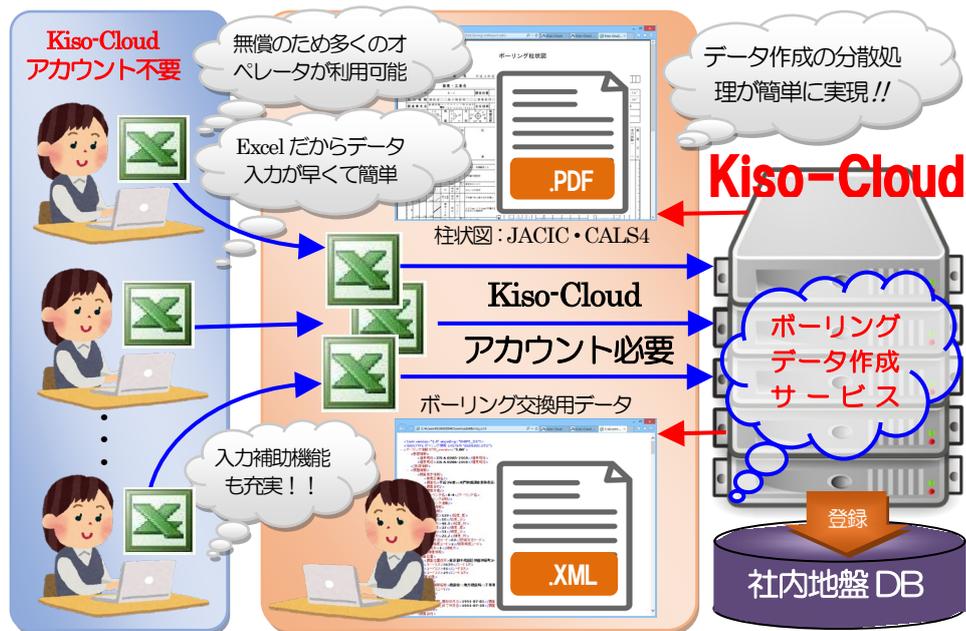
充実した入力補助機能

[ボーリングデータ作成サービス]に読み込んで利用します (Kiso-Cloud **利用パターン 2or3 アカウントが必要**です)。

No	下層深度 m	岩名・土名(B)	色調名(C)	相対密度(D)	相対湿度(E)	観察記事(D1/D2)
1	0.50	黄土	黒褐色	軟らかい	農耕土	
2	1.20	粘り土	暗灰色	軟らかい	赤褐色な粘り砂	
3	2.60	砂	暗灰色	非常に細かい	赤褐色な粘り砂	
4	3.20	シルト	暗黒灰色	軟らかい	高含水のシルト	
5	4.00	砂	暗灰色	細かい	きれいな中粒砂	
6	5.00	粘土混り砂	暗灰色	細かい	不均質で粘土質を含む砂質土	
7	6.90	硬砂り砂	暗灰色	中程度の	6.50m~1.00mの円礫を含むきれいな粘り砂	
8	7.30	粘土	暗灰色	軟らかい	含水高い粘り土	
9	9.00	シルト混り砂	暗灰色	細かい	シルト分含む砂質土	
10	10.00	粘土混り砂	暗灰色	軟らかい	目録片を若干混入する	
11					腐植物を含み、高含水の粘り土	
12						

目 次

1. Excel 編集機能の取得	1
2. ダウンロードファイルの説明	1
3. 利用バージョンの選択	2
4. MS Excel のマクロ設定	2
5. [起動]～[終了]	2
6. ボーリングデータ入力	3
6.1. 操作説明	3
6.2. 整列(横)	3
6.3. [セル挿入]および[セル削除]	3
6.4. [A 標題]	4
6.5. [BCDF メイン]	5
6.6. [E1 N 値]	6
6.7. [K 原位置試験]	7
6.8. [L 試料採取]	7
6.9. [O1 地質時代区分]	8
6.10. [P 孔内水位]	9
6.11. [Q1 掘削工程]	9
7. ボーリングデータ作成サービスの利用	9
8. スマホ・タブレットによる現場入力と情報共有 (ご提案)	10



ボーリングデータ作成サービス・Excel 編集機能 (簡易・無償版) 操作マニュアル

Ver.1.0.0 2016/08 : サービス提供開始

Ver.1.1.0 2019/06 : ボーリングデータ作成サービス (Ver.4) 対応版リリース&リニューアル

発行所 基礎地盤コンサルタンツ株式会社 Kiso-Cloud 事務局

〒136-8577 東京都江東区亀戸 1-5-7 錦糸町プライムタワー12階

問合せ e-mail : kiso-cloud@kiso.co.jp

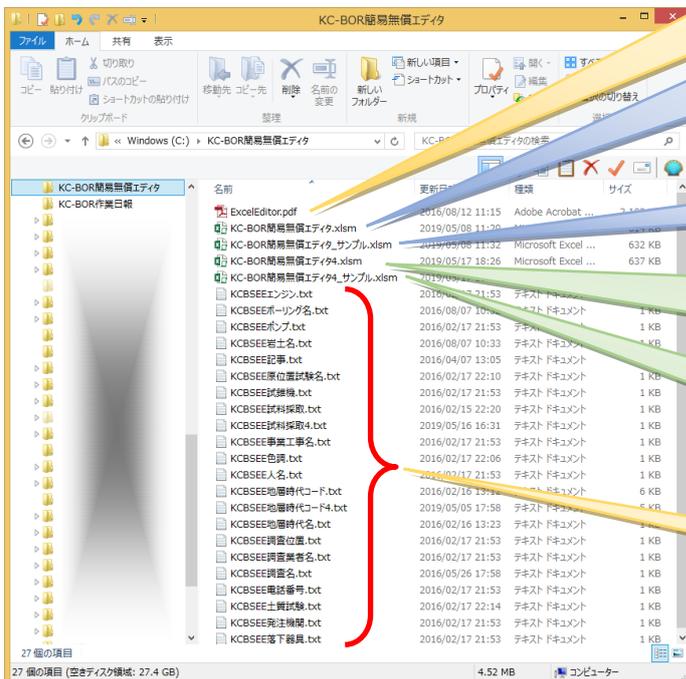
1. Excel 編集機能の取得

[ボーリングデータ作成サービス (EXCEL)]のトップページから必要なファイルをダウンロードします。

- ① [ボーリングデータ作成サービス (EXCEL)]のトップページから [Excel 編集機能 (簡易・無償版)]ボタンをクリックします。→[ファイルを開く]あるいは[保存]が確認された場合は[保存]を選択します(使用ブラウザにより若干、動作が異なります)。
- ② ダウンロードファイル (KC-BOR-ExcelEditor.zip) を右クリックし[開く] (あるいは zip 解凍) を選択します。
- ③ 解凍された[KC-BOR 簡易無償エディタ]フォルダを適切な場所に移動します。



2. ダウンロードファイルの説明



本文書 (操作マニュアル) です。

CALS3 データおよび JACIC 様式柱状図を作成する場合に利用する日報入力ファイルです。マクロが組み込まれているため拡張子は xlsm となります (読み取り専用ファイル)。

上記入力ファイルのサンプルであり入力方法の確認に利用します (読み取り専用ファイル)。

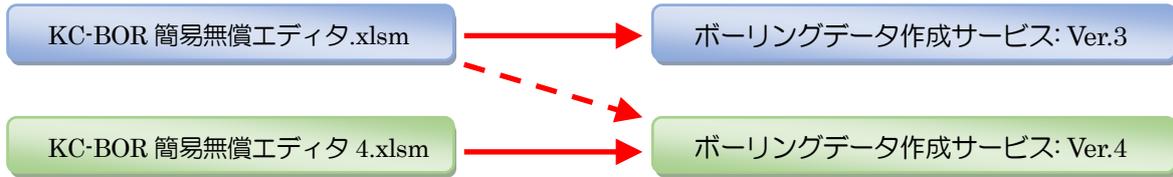
CALS4 データおよび CALS4 様式柱状図を作成する場合に利用する日報入力ファイルです。マクロが組み込まれているため拡張子は xlsm となります (読み取り専用ファイル)。

上記入力ファイルのサンプルであり入力方法の確認に利用します (読み取り専用ファイル)。

入力補助機能で利用する選択リストです (テキストファイルのためエンドユーザが編集可能です)。

3. 利用バージョンの選択

- ① CALS3（地質・土質調査成果電子納品要領(案)[H20.12]）形式データおよび JACIC 様式柱状図を作成する場合は、[KC-BOR 簡易無償エディタ.xlsx]を利用してデータ入力を行い、[ボーリングデータ作成サービス: Ver.3]に読み込ませます。
- ② CALS4（地質・土質調査成果電子納品要領[H28.10]）形式データおよび CALS4 様式柱状図を作成する場合は、[KC-BOR 簡易無償エディタ 4.xlsx]を利用してデータ入力を行い、[ボーリングデータ作成サービス: Ver.4]に読み込ませます。
- ③ [KC-BOR 簡易無償エディタ.xlsx]を[ボーリングデータ作成サービス: Ver.4]に読み込ませることも可能ですが、CALS3 と 4 では一部コード化が異なるため、正確なデータ作成のためには①②をお勧めします。
※ 「ボーリング柱状図及びボーリングコア取扱い・保管要領（案）・同解説（平成 27 年 6 月）」に対応した柱状図を CALS4 様式と称しています。

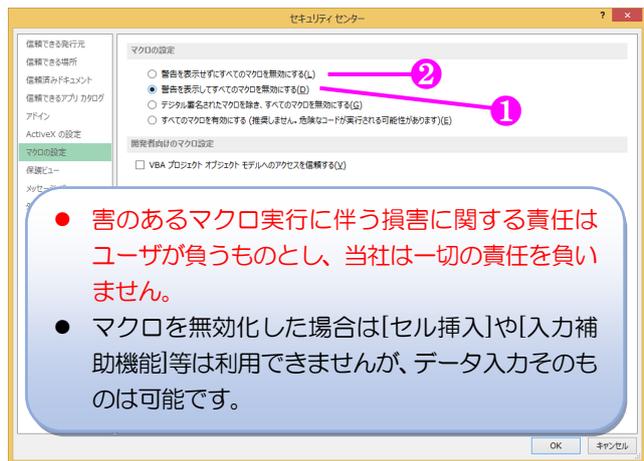


4. MS Excel のマクロ設定

Excel 編集機能では Excel マクロを利用するため、マクロ機能を有効化する必要があります。

- ① Excel のセキュリティセンターにて[マクロ設定]を[警告を表示してすべてのマクロを無効にする]を設定することを推奨します。
- ② [警告を表示せずに全てのマクロを無効にする]を設定した場合はマクロを利用できません。

Excel マクロに対するセキュリティポリシーや設定方法については Excel 関連資料を参照して下さい(例えば、Google 等のサーチエンジンで[Excel マクロ 有効化]で検索することで多くの有効な資料を参照可能です)。



5. [起動]～[終了]

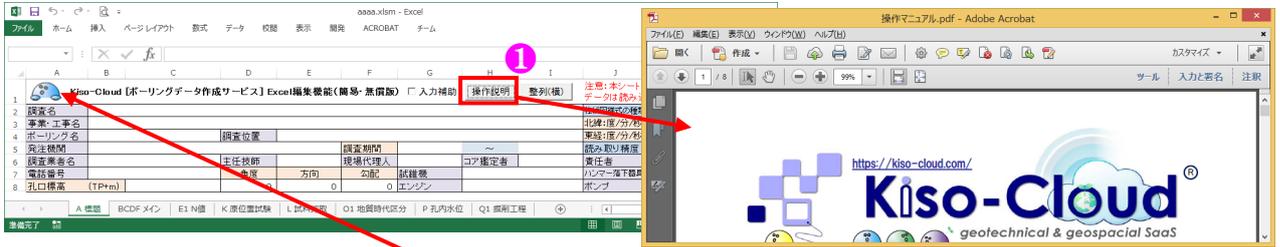
- ① [KC-BOR 簡易無償エディタ.xlsx]あるいは[KC-BOR 簡易無償エディタ 4.xlsx]を、ファイルエクスプローラでダブルクリック、あるいは Excel を起動し[ファイル]-[開く]をクリックして選択します。
- ② マクロのセキュリティ設定により「セキュリティ警告」が表示された場合は[コンテンツの有効化]をクリックします(一度、有効化をクリックすると、次回から警告は表示されません)。
- ③ [A 表題]～[Q1 掘削工程]タブをクリックし、各項目に対しキー入力します。
- ④ [KC-BOR 簡易無償エディタ.xlsx]あるいは[KC-BOR 簡易無償エディタ 4.xlsx]は読み取り専用ファイルのため、データ入力後に[ファイル]-[名前を付けて保存]をクリックし、入力データに応じた別ファイルとして保存します(思わぬデータ消失に備え、早めに名前を付けて保存し、入力中にこまめに[ファイル]-[上書き保存]をクリックすることを推奨します)。
- ⑤ [ファイル]-[閉じる]をクリックし入力を終了します。
- ⑥ データ更新の場合は、名前を付けて保存した Excel 編集機能ファイルを選択しデータ更新します。

! セキュリティの警告 一部のアクティブ コンテンツが無効にされました。クリックすると詳細が表示されます。
コンテンツの有効化 2

6. ボーリングデータ入力

6.1. 操作説明

- ① 各タブの[操作説明]をクリックすると、操作マニュアル(.pdf:本資料)を表示します。
本機能を利用するためには、前もってPDF閲覧ソフトをインストールしておく必要があります。



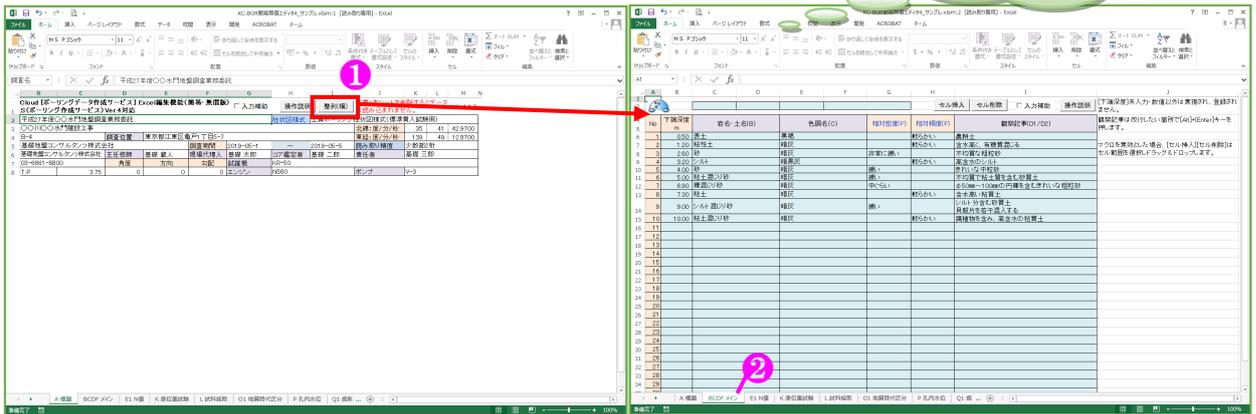
[BORくん]をクリックする事で、ブラウザを起動しKiso-Cloud ページに移移します。

6.2. 整列(横)

他のタブを参照したり、同時に複数タブのデータ入力を行う場合に利用します。

- ① [A 標題]タブの[整列(横)]をクリックすると、編集中の Excel データをコピーし横に並べます (Excel2007 では子ウィンドウとして横に並べます)。
- ② 参照したいタブを選択し、サイズ・位置を調整します。

大きな画面を有効利用
することができます。

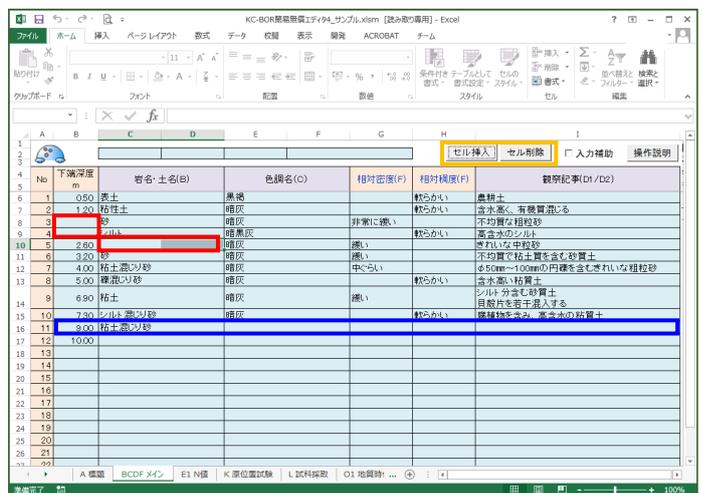


6.3. [セル挿入]および[セル削除]

[A 標題]タブ以外では一覧表形式での入力となり、[セル挿入]および[セル削除]機能を利用できます。

- ① セルを選択し[セル挿入]をクリックすると、選択セルに空セルが挿入され、選択セル以下のデータが下方向に移動します。
- ② 選択セル数分だけ移動するため、右図の下端深度のように 2 セル選択している場合は、2 セル分の空セル挿入と 2 セル分の下方向移動します (右図赤枠)。
- ③ 反対にセルを選択し[セル削除]をクリックすると、選択セルのデータは削除され、選択セル以下のデータが上方向に移動します。
- ④ [行挿入][行削除]する場合は同一行で全てのセルを選択します (右図青枠)。
- ⑤ マクロを無効にした場合、[セル挿入][セル削除]はセル範囲を選択しドラック&ドロップにより選択セルを移動します。

注意：セル挿入削除に Undo/Redo は効きません。



6.4.[A 標題]

(1) 入力項目

電子納品要領「A 様式:標題情報」のうち、実際に柱状図に表示される項目に絞って入力します。また、「柱状図様式の種類」と「経度緯度情報:読み取り精度」をリスト選択します。

注意: [A 標題]タブを削除すると正しいデータとして認識されなくなるため削除しないで下さい。

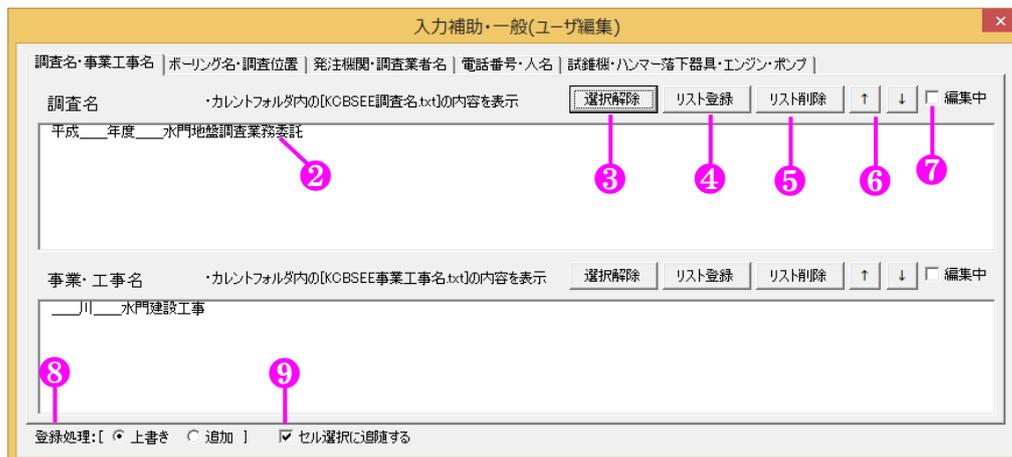
北緯東経は[ボーリングデータ作成サービス]に読み込んでから、地図上をマウスクリックする事で、簡単に設定可能です。

CALS4形式では標高基準にT.P.以外が選択可能となるように拡張されています。

(2) 入力補助

[A 標題]タブで利用可能な入力補助機能について説明します。

- ① [入力補助]をチェック(✓)すると[入力補助・一般(ユーザ編集)]ダイアログが表示されます(上画面参照)。
- ② [調査名・事業工事名]~[試錐機・ハンマー落下器具・エンジン・ポンプ]タブをクリックし、選択リスト内の項目をクリックすると、選択したデータが当該セルに入力されます。
- ③ [選択解除]...既にリスト内の項目が選択済みの場合、クリックすることで選択状態を解除できます。
- ④ [リスト登録]...当該セルにキー入力されているデータが、選択リスト内に登録されます(②と逆動作)。
- ⑤ [リスト削除]...選択リスト内の項目を選択し[リスト削除]をクリックすると、選択リスト内から削除されます。
- ⑥ [↑][↓]...選択リスト内の表示順を変更する場合に使用します。
- ⑦ [編集]...チェック(✓)中は選択リスト内の項目をクリックしても、選択したデータが当該セルに入力されません。[リスト削除]や[↑][↓]に伴い当該セルを変更したくない場合にチェックします。
- ⑧ 登録処理:[上書き][追加]...②操作により選択したデータを当該セルに入力する際の動作を指定します。
- ⑨ [セル選択に追従する]...チェック(✓)中は[A 標題]タブのセル選択に、[入力補助・一般(ユーザ編集)]ダイアログ(タブ)表示が追従します。



- ⑩ 選択リスト内の項目は、カレントフォルダ内にある[KCBSEE○○○○.txt]に登録されます。テキストエディタを利用しての編集も可能です（サポート範囲外です）。
- ⑪ 例えば Excel 編集機能を（社内）配布する場合に[KCBSEE○○○○.txt]を編集し、選択リストの社内標準を設定後に配布することも有効です。
- ⑫ ダイアログの図をクリック、あるいは[入力補助]をチェックオフすると、[入力補助・一般（ユーザ編集）]ダイアログが非表示となります。
- ⑬ [入力補助]をチェック（✓）しておくと、[A 標題]タブ選択に伴い、自動的に[入力補助・一般（ユーザ編集）]ダイアログが再表示されます。

6.5.[BCDF メイン]

(1) 入力項目

電子納品要領「B 様式:岩石・土区分」「C 様式:色調区分」「D1 様式:観察記事」「F 様式:相対密度・相対稠度」のうち、実際に柱状図に表示される項目に絞って入力します。

CALS 電子納品要領では各下端深度は独立しているものとして各々別の一覧表にて入力しますが、Excel 編集機能では「柱状-BASE/Win」と同様に各下端深度は一定として同じ一覧表にて入力します（「D2 様式:観察記事枠線」も一層下端深度とします）。

本仕様により[ボーリングデータ作成サービス]と比較して自由度は下がりますが、入力効率は格段に向上します。

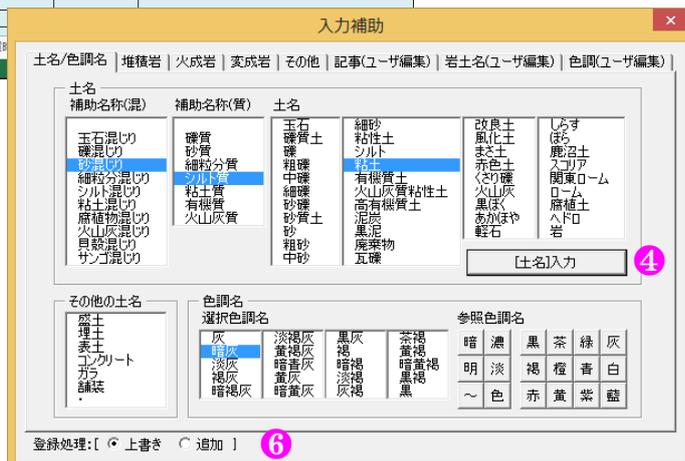
- ① [下端深度(m)][岩名・土名][色調名][相対密度][相対稠度][観察記事]をキー入力します。[相対密度][相対稠度]はリスト選択も可能です。
- ② [下端深度(m)]を未入力あるいは数値以外を入力した場合は、[ボーリングデータ作成サービス]に読み込んだ段階で無視され、土層情報として登録されません。
- ③ [行高さ][列幅]はマウス（カーソルが十字が変わったところ）のドラッグ&ドロップにより変更可能です。観察記事が長い、あるいは複数入力する場合は、適宜[行高さ]や[列幅]を調整して下さい。
- ④ 観察記事は改行したい個所で[Alt]+[Enter]キーを押します。



(2) 入力補助

[BCDF メイン]タブで利用可能な入力補助機能について説明します。[岩名・土名][色調名][観察記事]が入力補助対象となります。

- ① [入力補助]をチェック（✓）すると、[入力補助]ダイアログが表示されます。
- ② 入力補助機能によりデータを入力したいセルを選択しておきます（複数セルの選択が可能です）。



- ③ [土名/色調名]~[色調 (ユーザ編集)]タブをクリックし、選択リスト内の項目をクリックすると、選択したデータが選択セル欄に入力されます。
- ④ [土名/色調名]タブの[土名]選択のみ、各リストを選択し[土名]入力をクリックします (右図の場合は[砂混りシルト質粘土]が入力されます)。
- ⑤ [oo (ユーザ編集)]タブは[A 標題]タブの入力補助と同様、既入力データをリストアップして再利用するためにあります。[選択解除][リスト登録][リスト削除][↑][↓][編集]は[A 標題]タブの入力補助と同一です。

(3) [岩名・土名]入力補助

マクロ機能を利用できない (iPad/iPhone の Excel など) 環境での[岩名・土名]入力補助機能です (右図青矢印)。

- ① [補助名称(混)][補助名称(質)][土名]をドロップダウンリストから選択します。
- ② 各選択文字列が結合されます。
- ③ 結合された文字列を入力セルにコピー&ペーストします (この際、値の貼り付けを選択します)。

下端深度 m	岩名・土名(B)	シルト 砂質土 砂 粗砂 中砂 細砂 粘性土 シルト 粘土	混じり砂質シルト (C)	相対密度(F)	軟
3.20	シルト				
4.00	砂				
5.00	粘土混じり砂				緩い
6.90	礫混じり砂				緩い
7.30	粘土				中ぐらい
9.00	シルト混じり砂	暗灰			緩い
10.00	粘土混じり砂	暗灰			軟

6.6.[E1 N 値]

(1) 入力項目

電子納品要領「E1 様式:標準貫入試験」項目を入力します。

- ① [(N 値測定) 開始深度(m)]および[10cm 毎貫入量(CALS3 形式)]あるいは[100mm 毎貫入量(CALS4 形式)] [打撃 (回数)] をキー入力します。
- ② [開始深度(m)]を未入力あるいは数値以外を入力した場合は、[ボーリングデータ作成サービス]に読み込んだ段階で無視され、標準貫入試験情報として登録されません。
- ③ 合計貫入 (量) [打撃 (回数)]は自動計算されますが、キー入力による上書きも可能です。
- ④ [開始深度(m)]を[-999.99]とし、全ての[貫入][打撃]を空白とすると (ボーリングデータ作成サービスに読み込んだ際) N 値グラフで上下地点を線で結びません (右図青矢印)。
- ⑤ [ハンマー自沈][ロッド自沈]の場合は、[備考]のドロップダウンリストから選択し、10cm/100mm [貫入 (量)]に貫入量 (自沈量) をキー入力して下さい。

No	開始深度 m	10cm 打撃	10cm 貫入	20cm 打撃	20cm 貫入	30cm 打撃	30cm 貫入	合計 打撃	合計 貫入	備考
1	2.15	1	16	1	15	10	2	41		
2	4.15	2	10	3	10	4	9	30		
3	5.15	4	10	5	10	6	10	30		
4	6.15	2	10	4	10	5	10	30		
5	-999.99									
6	7.15	4	10	2	10	1	10	7	30	
7	9.15	1	10	1	10	10	2	30		
8			10		10	10	0	30		
9			10		10	10	0	30		

No	開始深度 m	100mm 打撃	100mm 貫入	200mm 打撃	200mm 貫入	300mm 打撃	300mm 貫入	合計 打撃	合計 貫入	備考
1	2.15	1	100	1	150	100	2	350		
2	4.15	2	100	3	100	4	100	9	300	
3	5.15	4	100	5	100	6	100	15	300	
4	6.15	2	100	4	100	5	100	11	300	
5	-999.99									
6	7.15	4	100	2	100	1	100	7	300	
7	9.15	1	100	1	100	100	2	300		
8			100		100	100	0	300		
9			100		100	100	0	300		

No	開始深度 m	100mm 打撃	100mm 貫入	200mm 打撃	200mm 貫入	300mm 打撃	300mm 貫入	合計 打撃	合計 貫入	備考
6	7.15	4	100	2	100	1	100	7	300	
7	9.15	1	100	1	100	100	2	300		
8	10.15	0	340					00	340	ハンマー自沈
9			100		100	100	0	300		ロッド自沈
10			100		100	100	0	300		ハンマー自沈
11			100		100	100	0	300		
12			100		100	100	0	300		
13			100		100	100	0	300		
14			100		100	100	0	300		

6.7.[K 原位置試験]

(1) 入力項目

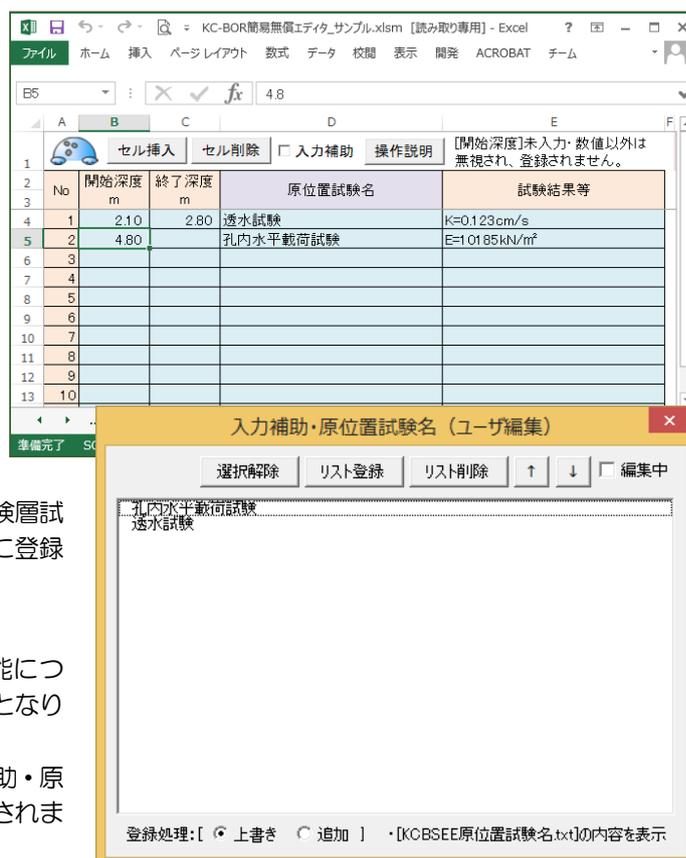
電子納品要領「K 様式:その他の原位置試験」項目を入力します。

- ① [開始深度(m)]=[試験区間:上端深度(m)]、[終了深度(m)]=[試験区間:下端深度(m)]、[原位置試験名]=[その他の試験の名称]、[試験結果等]をキー入力します。[原位置試験名]はリスト選択も可能です。
- ② [開始深度(m)]を未入力あるいは数値以外を入力した場合は、[ボーリングデータ作成サービス]に読み込んだ段階で無視され、原位置試験情報として登録されません。
- ③ 試験名を[孔内水平載荷試験][透水試験][PS 検層試験]とした場合でも[K:その他の原位置試験]に登録します。

(2) 入力補助

[K 原位置試験]タブで利用可能な入力補助機能について説明します。[原位置試験名]が入力補助対象となります。

- ① [入力補助]をチェック(✓)すると、[入力補助・原位置試験 (ユーザ編集)]ダイアログが表示されます。
- ② 入力補助機能によりデータを入力したいセルを選択しておきます(複数セルの選択が可能です)。
- ③ 選択リスト内の項目をクリックすると、選択したデータが選択セル欄に入力されます。
- ④ [選択解除][リスト登録][リスト削除][↑][↓][編集]は[A 標題]タブの入力補助と同一です。



6.8.[L 試料採取]

(1) 入力項目

電子納品要領「L 様式:試料採取」項目を入力します。

- ① [開始深度(m)]=[採取区間:上端深度(m)]、[終了深度(m)]=[採取区間:下端深度(m)]、[試料番号]、[採取方法]、[試験名]をキー入力します。[採取方法]はリスト選択も可能です。
- ② [開始深度(m)]を未入力あるいは数値以外を入力した場合は、[ボーリングデータ作成サービス]に読み込んだ段階で無視され、試料採取情報として登録されません。

No.	開始深度 m	終了深度 m	試料番号	採取方法	試験名 01	試験名 02	試験名 03	試験名 04	試験名 05	試験名 06	試験名 07	試験名 08	試験名 09	試験名 10
1	1.1	1.67	T-1	固定ピストン式(エクステンションロッド式)										
2	2.80	3.40	S1-2	ロータリー式三重管サンプラー	含水	比重								
3	4.15	4.45	D-2	標準貫入試験										
4	5.15	5.45	D-3	標準貫入試験										
5	6.15	6.45	D-4	標準貫入試験										
6	7.15	7.45	D-5	標準貫入試験										
7	8.00	8.60	T-2	ロータリー式三重管サンプラー(デニソン)										
8	9.15	9.45	D-6	標準貫入試験										

(2) N 値情報取得

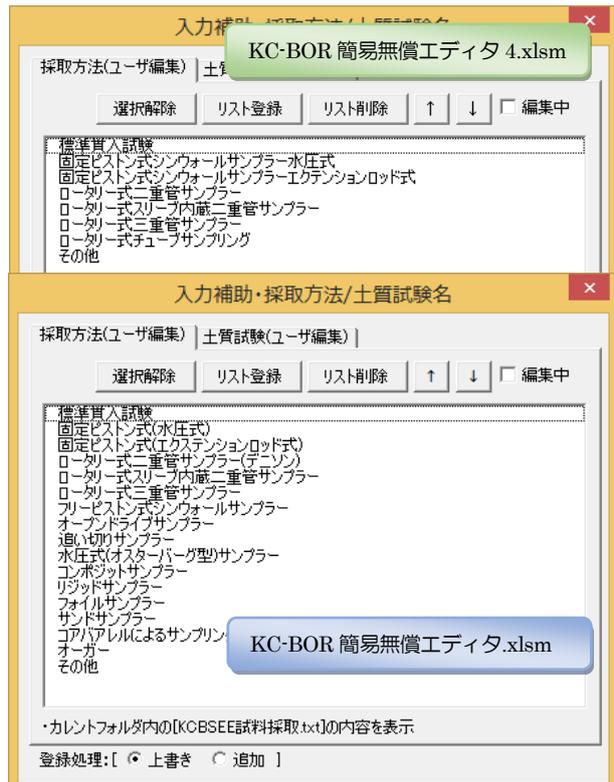
[E1 N 値]タブに入力済みの[開始深度(m)][終了深度(m)]を取得できます([採取方法]は[標準貫入試験]となります)。

- ① N 値情報取得機能によりデータを入力したい開始セルを選択しておきます。
- ② [N 値情報取得]をクリックすると、[E1 N 値]タブに入力済みの[開始深度(m)][終了深度(m)]を取得し、開始セル以降に登録します。

(3) 入力補助

[L 試料採取]タブで利用可能な入力補助機能について説明します。[採取方法][試験名]が入力補助対象となります。

- ① [入力補助]をチェック (✓) すると、[入力補助・採取方法/土質試験名]ダイアログが表示されます。
- ② 入力補助機能によりデータを入力したいセルを選択しておきます (複数セルの選択が可能です)。
- ③ [採取方法 (ユーザ編集)] ~ [土質試験 (ユーザ編集)] タブをクリックし、選択リスト内の項目をクリックすると、選択したデータが選択セル欄に入力されます。
- ④ [選択解除][リスト登録][リスト削除][↑][↓][編集] は[A 標題]タブの入力補助と同一です。



6.9.[O1 地質時代区分]

(1) 入力項目

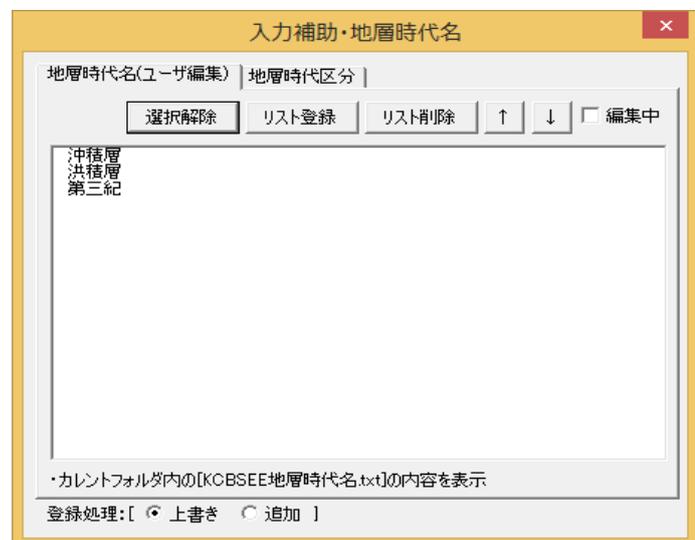
電子納品要領「O1 様式:地質時代区分」のうち、実際に柱状図に表示される項目に絞って入力します。

- ① [開始深度(m)]=[区間深度:上端深度(m)]、[終了深度(m)]=[区間深度:下端深度(m)]、[地層時代名]をキー入力します。
- ② [開始深度(m)]を未入力あるいは数値以外を入力した場合は[ボーリングデータ作成サービス]に読み込んだ段階で無視され、地質時代区分情報として登録されません。

(2) 入力補助

電子納品要領「O 地質時代区分」タブで利用可能な入力補助機能について説明します。[地層時代名]が入力補助対象となります。

- ① [入力補助]をチェック (✓) すると、[入力補助・地層時代名]ダイアログが表示されます。
- ② 入力補助機能によりデータを入力したいセルを選択しておきます (複数セルの選択が可能です)。
- ③ [地層時代名 (ユーザ編集)] が [地層時代区分] タブをクリックし、選択リスト内の項目をクリックすると、選択したデータが選択セル欄に入力されます。
- ④ [選択解除][リスト登録][リスト削除][↑][↓][編集] は[A 標題]タブの入力補助と同一です。



6.10.[P 孔内水位]

電子納品要領[P 様式:孔内水位]のうち、実際に柱状図に表示される項目に絞って入力します。

- ① [孔内水位(m)][測定年月日]をキー入力します。
- ② [孔内水位(m)]を未入力あるいは数値以外を入力した場合は[ボーリングデータ作成サービス]に読み込んだ段階で無視され、孔内水位情報として登録されません。

No	孔内水位 m	測定 年月日
1	0.90	2015-06-10
2	1.50	2015-06-11
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

6.11.[Q1 掘削工程]

電子納品要領[Q1 様式:掘削工程]のうち、実際に柱状図に表示される項目に絞って入力します。

- ① [掘削深度(m)][測定年月日]をキー入力します。
- ② [掘削深度(m)]を未入力あるいは数値以外を入力した場合は[ボーリングデータ作成サービス]に読み込んだ段階で無視され、掘削深度情報として登録されません。

No	掘削深度 m	測定 年月日
1	5.45	2015-07-10
2	10.00	2015-07-11
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

7. ボーリングデータ作成サービスの利用

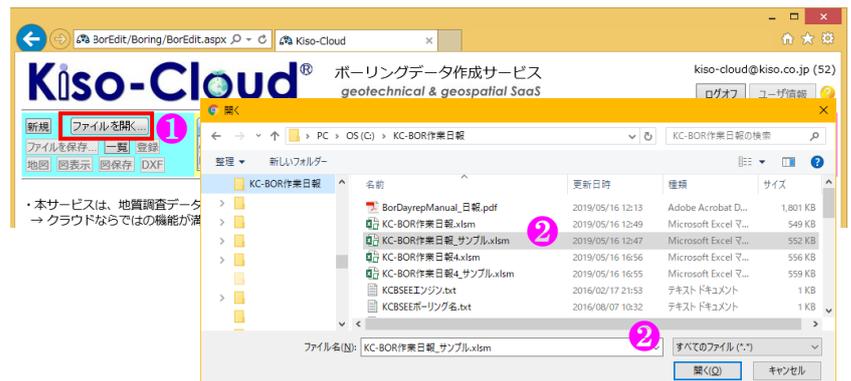
Excel 編集機能ファイルを Kiso-Cloud[ボーリングデータ作成サービス]に読み込むことで、CALS 電子納品用データ (XML 形式) および柱状図 (PDF 形式) に変換することが可能です。

- Ver.3 では CALS3 (地質・土質調査成果電子納品要領(案)[H20.12]) 形式データおよび JACIC 様式柱状図に変換されます。
- Ver.4 では CALS4 (地質・土質調査成果電子納品要領[H28.10]) 形式データおよび CALS4 様式柱状図に変換されます。
- [KC-BOR 簡易無償エディタ.xlsx]は Ver.3/4 共に読み込むことが可能ですが、[KC-BOR 簡易無償エディタ 4.xlsx]は Ver.4 での読み込みのみとなります。
- ただし、[KC-BOR 簡易無償エディタ.xlsx]のコード体系は CALS4 形式とは微妙に異なるため、CALS4 形式データおよび CASLS4 様式柱状図を取り扱う場合は、[KC-BOR 簡易無償エディタ 4.xlsx]の利用をお勧めします。
- ボーリングデータ作成サービスの詳細は、各サービスのマニュアルを参照して下さい。

Ver.3 : <https://kiso-cloud.com/ggs/Manual/ManualTjEdit.aspx>

Ver.4 : <https://kiso-cloud.com/ggs/Manual/ManualTjEdit4.aspx>

- ① [ボーリングデータ作成サービス]において[ファイルを開く]をクリックします。
- ② [アップロードするファイルの選択]ダイアログにおいて、名前を付けて保存した Excel ファイルを指定し[開く]をクリックします。
- ③ 指定データを読み込み Web ブラウザに表示します。

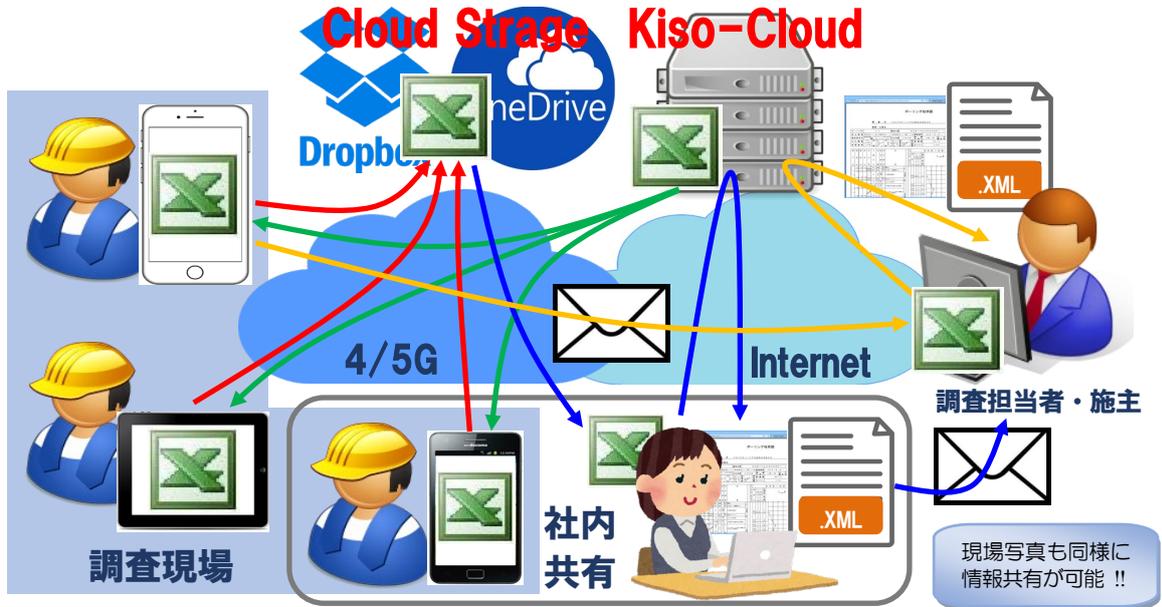


8. スマホ・タブレットによる現場入力と情報共有（ご提案）

本機能の目的は前述したように「使い慣れた Excel を使ってボーリングデータを無償で作成！！」ですが、もう一つ・・・Excel ベースとした理由に「**スマホ・タブレットを使って調査現場でボーリングデータを作成！！**」があります。

Microsoft Excel は Windows PC のみではなく、非常に広範なスマホ・タブレットで動作します（iOS・Android ではマクロ機能が利用できませんが・・・）。しかも 10.1 インチ以下の端末では無償利用が可能です。

さらに移動体通信網の発展（4G から 5G へ）や、（無償の）各種クラウドストレージサービス（OneDrive や Dropbox など多数）の充実により、「現場サイドでのデータ入力と情報共有」が非常に現実的になっています。



以下、iPhone (iPad) と OneDrive による運用イメージです。

マクロは利用できないので便利機能は使えませんが、データ入力そのものは問題ありません。

通信環境が弱い場合、xslm→xls 保存することで、マクロコード分ですが軽くなります。

The screenshots show the user interface on mobile devices. The iPhone screen displays a OneDrive folder named 'KC-BOR簡易無償エディタ'. The iPad screen shows an Excel spreadsheet with a dropdown menu for soil type selection. A callout box explains: 「マクロ機能を利用できない (iPad/iPhone など) 環境での岩名・土名入力補助機能」 (Input assistance function for rock names and soil names in environments where macro functions cannot be used).

コラム：泥水まみれのボーリング調査現場でスマホ・タブレットなんて使えない・・・

- Hei Seri!! 5.2m まで砂質シルトの暗灰
- Alexa!! 5.2m まで細砂の暗灰で貝殻混入

現場でデータ入力を行うための最有力手段である音声認識入力も、もうすぐ手に届くところまで来ている？ 早急な機能提供に努力します m(_)_m